



日本聖公会  
大阪教区教務局  
〒545-0053  
大阪市阿倍野区  
松崎町2-1-8  
TEL 06-6621-2179  
FAX 06-6621-3097  
発行責任者  
教務局長 司祭 原田光雄

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 [office.osaka@nsk.org](mailto:office.osaka@nsk.org)

第428号 2012年12月23日発行

「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」  
(ヨハネによる福音書1章14節)  
クリスマスは、神がそのひとり子であるイエスを人としてこの世にお遣わしになり、わたしたちと一緒に歩み、共にいてくださることによって、神がどれほど



主教 サムエル 大西

## 神が人となる

深く人々を愛し、苦しみ悩む人々をお救いになろうとされているかを語りかける出来事です。  
けれども、この出来事はほんの一握りの人だけしか知りませんでした。それはあまりにも小さな、取るに足りない、誰もが気付くことのないような場末の出来

事だったので。

神の愛の働きが世間という常識の目ではとても見えない、隠れた形において現わされたのです。「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた」とは、人間社会の狭間に隠れるように、しかしそっと寄り添うよう

ことを言っています。  
旅の途上、泊まる場所もない中、やっと探し当てた夜露をしのげるほどの家畜小屋で、マリアとヨセフ、そして家畜たちに見守られながらお生まれになったのが、救い主み子イエスでした。  
天使が告げるこの喜びのメッセージは、まず最初に

野宿しながら羊の群れの番をしていた貧しく、差別社会の中で差別され、弱い立場でじっと生き抜いてきた羊飼いたちに、そして、救いからは遠いとされていた異邦人である東方の占星術の学者たちにも告げ知らされました。

人間社会の狭間で何とか



## 修

生き抜いてきた人々に告げ知らされた、糞尿の臭気漂う家畜小屋での救い主誕生のメッセージは、人間社会の常識を越えた出来事として受け入れられ、彼らを新たな生き方へと立ち上げさせました。家畜小屋での救い主の誕生は、最も小さく、弱く、苦しい立場に生きる

人々と一緒に歩み、共に生きる神の愛の姿に他ならないのです。  
喜びを喜びとして素直に受け入れられないような厳しい状況の中で、クリスマスの出来事が起こったことに思いを馳せたいのです。

神の愛の働きは、人間の思いをはるかに越えた正に想定外のものでした。人間が神になる、あるいは人間が神になりたいという願望はよく聞くことですが、神が人間となるということは人間には遠く思いも及ばぬことです。どうして、そのような貧乏くじを引くようなことを神はなさるのだろうか？ 神の愛とはこのような問いを持つ人間にとっては何不可解なものかもしれません。

クリスマスはわたしたちたちにこのような問いかけをしてきます。この問いの前で、2回目のクリスマスを迎える東日本大震災の被災地とそこに住む人々を想います。

# 大阪教区第108(定期)教区会 開会演説

2012・11・23 (金) 主教座聖堂(川口基督教会)

本日ここに大阪教区第108(定期)教区会を開くことができ、心から感謝いたします。

東日本大震災から1年8カ月を経、今なお深い心の痛み、苦しみ、悩み、悲しみ、そして福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染の危機にさらされている被災地の多くの方々が、先の見えない厳しい現実の中で、2度目の冬を迎えようとしていることを覚えて、主の慰めと励ましを共に祈りましょう。

## 日本聖公会(管区)

5月22日(火)〜24日(木)、第59(定期)総会が開かれ、新たな方向性を指し示すものとして、「原発のない世界を求めて、原子力発電に対する日本聖公会の立場」と「日本聖公会ハラスメント防止宣言」を採択しました。

今総会では沖繩教区主教選挙も行われましたが、候補者

の推薦がなく、これに対する法規の定めも前例もないため、選挙長はこれを主教会に委ねました。

9月14日(金)〜17日(月)、「宣教協議会」が浜松で、主題「いのち、尊厳限りないもの」〜宣教する共同体のありようを求めて〜のもとに開かれました。その目的には、「日本聖公会の現状と課題を分かち合い、これからの日本聖公会の宣教に関する方針と方向性を提示する」こと〜が掲げられました。激変する世界の状況下において、主イエス・キリストの十字架の愛と復活

の命に生かされる共同体としての信仰に立ち、真の喜びの福音を宣べ伝えていくためのビジョンを作り上げること、教会が社会から求められていく宣教とは何かを具体的に提示すること、そして世界の平和の実現のため、いのちを尊ぶための働きに、教会が具体的な行動によって関わって



くことが模索され、東日本大震災によってクローズアップされてきた原発の問題、放射能汚染の問題なども、新たな視点で宣教を捉えていく上で看過できないものとして位置づけられました。管区の「いっしょに歩こう!プロジェクト」の働きは、全聖公会として取り組むべき宣教課題を多

くになっており、また今後、教区間協働を前進的かつ具体的に実践していく突破口になることも期待されています。

宣教協議会参加者による日本聖公会〈宣教、牧会〉の10年提言を、全教会の信徒の皆さん一人一人が手にし、しっかりと読み、話し合い、それを受けて教会ごとに宣教課題を具体化していただくようお願いいたします。

## 大阪教区

今年に入り、納骨堂のある教会(20教会すべて設置認可を受けていなかった)はすべて設置認可申請を早急にするようにとの行政指導を受け、その手続きに入りました。「宗

教法人日本聖公会大阪教区規則」の変更が必要な教会もあるため、今教区会に規則一部改正の議案が提出されています。また「ハラスメント(日常生活の破綻につながる不当な言動)・虐待などの予防と対応に関する規則」制定ならびに「大阪教区施行細則」一部改正の件、そして2013年度の教区一般会計予算案が議案として提出されています

ので、よろしく願いたします。

教区宣教協議会を管区の宣教協議会に先立ち、7月15日(日)、16日(月)に開き、各教会から約80人が参加、そのうち呼びかけに答え、女性20人、青年も10数人の参加があり、希望が与えられました。それでも全参加者の30%には及びませんでした。今教区会の議員・代議員54人のうち女性13人で、これも約25%です。すべての会合において、いつも女性が3分の1以上になるようにしていきたいものです。

さて、教区宣教協議会は実行委員会のもとに、教会や教区の課題への取り組みについて、具体的な提案等をまとめていく準備を進めました。各教会においても、具体的に取組むべき課題の優先順位を決め、協議会後にその実現に向けて具体的な活動を進めていってもらうことにしました。大阪教区は来年2013年、教区成立90周年を迎えます。90周年実行委員会も動き出しっております。11月4日(月)。(次頁につづく)

(前頁よりつづく)

文化の日(振替休日)には教区成立90周年記念礼拝を勝山のブル学院を会場に行います。午後のプログラムについての楽しいアイデアなどぜひ実行委員会までお寄せ下さい。

1月から「大阪教区成立90周年記念特祷」を毎主日の第2特祷として用います。90周年を契機に100年に向けて、たとえ小さくても、新たな歩みが一つでも二つでも各教会で、また隣接教会との間で、そして教区で、更に京都教区との間で始められることを期待いたします。

来年度、人権セミナーを田宮紘執事の指導のもとで、釜ヶ崎現場研修として、またハルセン病についての学びを、邑久光明園で畑野研太郎医師の指導のもとに現場研修の形で行う計画です。

今年は芦屋聖マルコ教会100周年(1月14日)、庄内キリスト教会50周年(11月3日)の記念礼拝・祝賀会が行われました。

営繕関係では、築20年になる教区館・主教館の外装塗装工事(屋根と壁)を10月に行

いました。

聖公会生野センターは今年創立20周年を迎え、6月17日(日)、総会と記念パネルディスカッションが聖ガブリエル教会で行われました。20周年記念のDVDが500部作成され、全教会、関係各方面に送られました。

聖バルナバ病院は来年創立140周年を迎えます。4月より「財団法人」から「公益財団法人」へ移行、理事長に小沢淑郎氏、副理事長に大西修主教が就任。

京都教区との合併をも視野に入れた教区間協働関係

昨年の(定期)教区会で両教区の常置委員会が、議案「大阪教区・京都教区の協働及び合併に関する検討委員会」設置の件を両教区会に提出し、可決されました。早速検討委員会が作られ、今回その中間報告が提出されました。検討委員会は来年度の(定期)教区会に最終報告を提出することになっていきます。この問題について両教区の信徒・教役者に更なる関心を持っていただきたいと願っています。

教役者1日人事交流は順調です、これと共に信徒の交流も促進されることを期待しています。

教会奉仕者のための学びは第Ⅲ期目(3年目)に入りま

した。

台湾聖公会との協働関係

毎主日、両教区の教会において教会名と教役者名を挙げて代祷を捧げています。第3期協働関係締結の2年目に入る来年3月19日、23日の予定で、東北地方巡礼の旅を計画、台湾聖公会から主教授夫妻数名を招待します。また、11月4日の教区成立90周年記念礼拝にも招待する予定です。

東日本大震災被災者支援の働き

神戸・大阪・京都3教区協働の東日本大震災被災者支援の働きは、7月3日、小名浜聖テモテ教会において第1期終了感謝礼拝が3教区主教の出席のもとに行われ、引き続き7月から「聖テモテ・ボラントイア・センター」として、来年5月まで第Ⅱ期の活動が続けられます。

このために当教区から木村幸夫司祭(退職)を専任者として派遣し、管区の「いっしょに歩こう!プロジェクト」との協働関係の中でその働きを進めています。原発被災地域から移転してきた人々が住む仮設住宅での支援活動を覚えてお祈りください。

東日本大震災被災者救援・支援募金は1年足らずの間に、目標額5000万円を達成することが出来ました。これは「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」(ローマ12・15)のみ言葉を身をもって実践し、痛みを伴ってなされた愛の募金であったと思います。改めて教区の皆様に心から感謝申し上げます。

今年1月以降の主な人事は以下の通りです

○モーゼ任大彬(イム・テレビン)司祭 1月1日付、カナダ聖公会ニューウエストミンスター教区バンクーバーホーリークロス教会への出向許可。  
○フランチェスコ成岡宏晃聖職候補生志願者 4月聖公会神学院入学。来年1月1日付聖職候補生に認可。

○ヤコブ義平雅夫聖職候補生 4月より東豊中聖ミカエル教会勤務。来年3月、執事試験。  
○クリストファー奥村貴充、ジョイ千松清美、ヨハネ古澤秀利の3執事 4月25日(福音記者聖マルコ日) 公会の執事に聖別。来年3月、司祭試験。

○ジョージ林 正樹執事 12月8日(土)、公会の司祭に聖別。  
○アンデレ田宮 紘執事 来年3月末日、定年退職。  
○サムエル久保道則司祭(退職) 1月27日逝去。(86歳)  
○ヨシユア早川義也司祭(九州教区退職・大阪教区出身) 10月2日逝去。(75歳)

2011年度の教勢報告

(一)は2010年度との比  
○教役者数「現職」20  
主 教 1 司 祭 14 執 事 2  
聖職候補生 3  
○同「退職嘱託」9  
主 教 1 司 祭 8  
○現在信徒数 3238  
(▲49)  
○現在受聖餐者数 1805  
(▲31)  
(次頁最下段につづく)

第108回 教区会 報告と議案の記録

日本聖公会大阪教区第108(定期)教区会は2012年11月23日、大阪教区主教座聖堂・川口基督教会で行われ、午前9時の開会の聖餐式に次いで会館3階の集会ホールに集い、議事に移った。参加者は、教役者議員16人(欠席3人)、信徒代議員(38人)。大西主教の開会祈祷のあと、同主教の開会演説が行われ(演説の要旨は別項)、次いで諸報告に移り、常置委員会報告(同委員長・岩城聰司祭)が人事、教区・教会に関する事項など報告。

大阪教区宣教協議会につき実行委員長・磯崎久司祭が、各教会の宣教課題の明確化と共有のため、六甲での協議会(7月15日、16日)、および参加者のリユニオン(11月25日)について報告。

「大阪教区と京都教区の協働及び合併に関する検討委員会中間報告」は岩城司祭が報告。昨年の大阪、京都両教区で、それぞれが協働および合併に

関する検討委員会の発足を決議、両教区それぞれ教役者2人、信徒5人、計10人による「検討委員会」(任期2年)が発足したこと、両教区の教会、現在受聖餐者数、関連諸施設、教役者の推移と将来予測、さらに両教区の地区の新設、伝道区の編成、主教座聖堂など、「考え得る選択肢」が示され、同時に「合併のメリットと発生する課題」の分析、「新たな教区間の推進」にも言及された。

教務局報告では特に①各教会納骨堂の設置許可申請手続き、②教区事務所職員の異動・専任化③大阪教区報の頒布価格の改定④教務局長の専任化などが、教務局長・原田司祭から報告。①について、大阪府の教会の納骨堂につき、府環境衛生課から「自治体の許可を得るか、撤去するか」との通告を受け、府下の教会19教会のうち、納骨堂を持たない2教会を除き、許可申請の手続きを進めることとした。

②について、非常勤職員の後任として常勤職員が着任。仕事が増す事務所として懸案だった「常勤2人体制」が与えられた。

「京都教区財政担当者との連絡会について」

総務部報告

まず財務委員会報告を小池義郎財務委員長が務め、①東日本大震災救援募金として目標を越す総額57,609,734円が献げられた②東北教区主教座聖堂建築資金として大阪教区22教会の信施などに、東日本大震災救援募金の一部を加え、150万円を献げたなど報告。

「2013年度一般会計予算の編成」少子高齢化、東日本大震災、国内経済、信徒数の減少などのため、教会財政は厳しい情勢にあり、大阪教区として①教区事務所「常勤2人体制」の実現による人件費の増大、②大阪教区の2012年現在受聖餐者数は、2006年に比べ2000人減の1805人。このため献金・財政基盤などの確立、経費節減を進める、③来年、教区成立90周年を迎えて諸費用の発生が見込まれるが、新しい宣

宣教部報告

宣教部会は年4回の部会を開催し、教区の宣教活動の情報を交換。教区礼拝(9月30日)は台風接近のため中止となったが、プール学院清心館に集った人たちが礼拝を持ち、東北教区の長谷川清純司祭が説教。午後の講演会は中止となった。

(次頁につづく)

(前頁よりつづく) ○不陪餐者教

533 (▲11) ○主日礼拝出席者数 918 (▲5) 現在信徒数の28% ○主日礼拝陪餐者数 815 (▲40)

現在受聖餐者の44% ○堅信式受領者33 (▲3) ○聖洗式受領者31 (▲15) ○逝去者47 (▲11)

右記の数字のうち、現在受聖餐者は2008年の1913人から2011年には1805人と4年間で108人減少。

2013年度の目標数

現在受聖餐者 1900人 (目標達成まで95人増) 主日礼拝出席者 1000人 主日礼拝陪餐者 850人 堅信式及び聖洗式受領者 それぞれ50人 不陪餐者 50人減少させる 4月以降の現職教役者(予定) 主教1、司祭15(内出向1)、執事1、合計17人

以上をもちまして開会演説といたします。



(前頁よりつづく)  
その他、青少年育成・活動支援、広島平和礼拝など報告。

**生涯学習委員会報告**

「キッズフェスティバル2012」(132人が参加)、青少年キャンプ、「教会奉仕者の学び」(ウイリアムス神学館特別出張講座)、「信徒の学び」、「教区の宣教協議会へ

の協力」などを報告。

**社会宣教委員会報告**

委員12人で構成され、年間5回の委員会開催。「大阪宗教9条の会」、「部落解放キリスト者協議会」の活動報告。「大阪教区手話の会・つたえて」の手話通訳派遣。点・音訳の「ことのは」奉仕者は20人で、大阪教区報、聖公会新聞、祈祷書などの点字訳・音訳の活動などを報告。

**在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会報告**

在日・韓国学習シリーズは「提岩事件とキリスト者」など3回の学び。生野センターと教区による「フィールドワーク」、韓国の歴史の学びと教会交流の「韓国ツアー」など。

**礼拝・音楽委員会**

「鈴木隆太さんを囲んで礼拝音楽を学ぶ」、「祈りと賛美・東日本大震災を憶えて」、「第6回ペンテコステ・ヴィジル」、「サーバー研修会」、オルターギルドによる「聖布し

しゅう会」の活動など報告。

小名浜聖テモテ・ボランティアセンターの現地調整者として働く木村幸夫司祭が現状報告のため一時戻られ、「人々は恨み言は決して言わず、こんな苦勞を他の人々が味わわないようにと思っておられる」などと話された。

主教座聖堂、聖職試験委員会、聖職養成委員会の各報告のあと、「教区神学生後援会報告」では、大西主教が教区唯一の神学生・成岡宏晃さんに続き、さらに神学生が増し加えられることを望み、特別の祈りのカードを作成、配布したことを強調された。

以下「管区関連委員報告」  
「人権担当委員報告」諸学校・諸施設チャプレン報告」とともに、学院、病院、施設、釜ヶ崎担当、聖公会生野センターの報告が続き、すべての報告が了承された。

「管区関連委員報告」  
「人権担当委員報告」諸学校・諸施設チャプレン報告」とともに、学院、病院、施設、釜ヶ崎担当、聖公会生野センターの報告が続き、すべての報告が了承された。

**議案**

**議案第1号**

宗教法人日本聖公会大阪教区規則一部改正の件  
納骨堂設置許可申請に伴い、大阪市から宗教法人でない各

教会に大阪教区が「従たる事務所」を構えていることを、法人規則に明記しなければならぬと指導されていることにより、第2条を改正。

現行では宗教法人は、事務所を「大阪市阿倍野区松崎町2丁目1番8号」に置いているが、今後は、「主たる事務所」を「松崎町」に置き、「従たる事務所」は川口基督教会をはじめとする10教会の内に置くとするもの。可決された。

**議案第2号**

大阪教区主教座聖堂規則の一部改正の件  
教区主教座聖堂の働きを充実させる上で、主教座聖堂参事会を拡充する必要があるため、第3条を改正。

現在の参事は司祭2名、信徒2名だが、改正案は司祭3名(うち1名は当該教会の牧師とする)、信徒3名とする。可決。

**議案第3号**

「ハラスメント(日常生活の破綻につながる不当な言動)・虐待などの予防と対応に関する規則一部改正の件。

2010年の104(定期)教区会で可決された「牧会支援委員会運営ガイドライン」をもとに検討を加え、「大阪教区施行規則」の改正が必要となるため、議案として提出された。現行の「ハラスメント・虐待などの予防と対応に関する規則」、「ハラスメント・虐待などの予防と対応に関する相談細則」が対象。可決。

議案第4号  
2013年日本聖公会大阪教区一般会計予算承認の件  
○2013年度大阪教区一般会計予算。収入、支出はそれぞれ4000万円(2012年同3800万円)  
○2013年教区費分担金。3800万円(2012年予算3600円) 可決。

**常置委員選挙**

当選した方は次のとおり。  
聖職 岩城 聰司祭、磯 晴久司祭、齋藤 壹司祭  
信徒 佐野信三さん、畑野めぐみさん、小池義郎さん。  
(以上)

(文責・編集部)

# 大阪教区に司祭が誕生

## 林正樹師の按手に感謝と喜び

日本聖公会大阪教区、ジョージ

林正樹執事の司祭按手式が12月8日(土)、主教座聖堂(川口基督教会)で行われ、厳しい寒さを押し、聖職、信徒、教区英語礼拝会衆、日本基督教団牧師、プール学院、YMCA、JOCISなどキリスト教非営利組織代表者などの他教派の来賓の方たち155人が集い、待ち望んでいた司祭の誕生を主に感謝し、喜

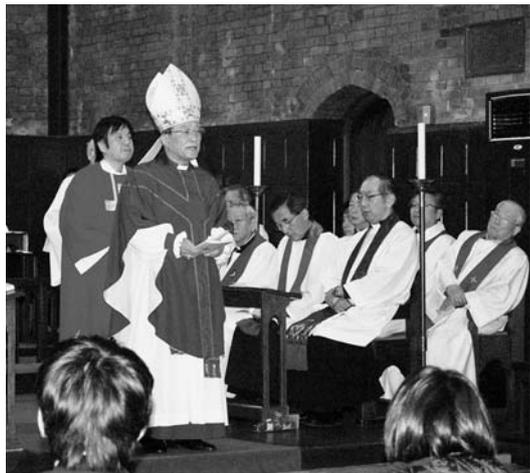
びを共に分かち合った。

午前10時半、聖歌390番の奏楽の中、聖職、信徒奉事者によるプロセッションが始まり、林執事が緊張の足取りで大西主教の前を歩む。祈りと、み言葉の朗読のあと、山野上素充司祭が説教、次のように話された。

突然の病のため緊急入院。幸いにも軽度で済み、2週間で退院されたが、この出来事には深い意味があり、神の警告と恵みであると受けとめて欲しい。私たち教役者は司祭按手に先立ち、林執事を囲み黙想の時を持ち、司祭として『すべての人を分け隔て無く愛し、奉仕のわざを為す』ことを共に噛み締め、あなた一人が背負うのではなく、私たち同業者が共に歩むことを祈り、励まし合った。林執事は退院の翌日には仕事に復帰されたが、これには深い意味があると思う。どうか信徒の歩みを考え、自分のペースを押さえることが必要だ。神はあなたの能力を封印した上

約」が行われようとしているが、林執事への会衆の「同意」と「支持」は極めて重い言葉である。林執事は一カ月余前、

**公 示**  
 救主降生2012年12月8日  
 日本聖公会大阪教区主教  
 主教 サムエル 大西 修  
 以下の人事を発令します。  
 司祭 ジョージ 林 正樹  
 大阪聖パウロ教会副牧師に任命する。



で、「さあ、行きなさい」と、あなたを福音宣教に遣わせられたのだと思う」。

ニケヤ信教のあと大西主教が祭壇の前の座に着き、正服を着けた志願者・林執事を前に、推薦者が「司祭にふさわしい人」と推薦のあと、林執事が誓約。会衆一同が立

ち、按手の同意と支持を行い、大西主教が林執事を「試問」。一同による「聖職按手の嘆願」のあと、臨席の司祭が膝まづく林執事を囲む中、大西主教が林執事の頭に手を置き、ここに「林司祭」が誕生した。

式後は一同、会館3階に移り祝会へ。林司祭の体調をも考慮した簡素な祝会となったが、立食パーティのテーブルを囲む人々が互いに喜び合う中、林司祭の同働者、同窓など、来賓の方々の祝辞が続いた。

(編集部)



# 庄内キリスト教会 創立50周年記念を迎えて 「ちいさな祈り」をテーマに感謝礼拝

ダビデ 阿部 光

「ちいさな祈り」をテーマに「創立50周年記念感謝礼拝」を捧げることができました。

11月3日(土・文化の日)、当日は天候に恵まれ、お日様が祝福してくれているかのように、温かく輝いていました。天候に感謝します。

この記念感謝礼拝に向け、

私達は準備を進めてまいりました。しかしこの小さな庄内キリスト教会だけでは遅々と進まず、気をもんでおりましたところ、北摂3教会の聖トマス教会、聖ミカエル教会の皆さまから「協力させていただきます」とのお声を頂き、また他の教会からお声



を頂き、送迎車の手配、駐車場の手配、会場作りのお手伝い等、私達だけでは気の付かない所、また手の回らない所を引き受けてくださいました。庄内キリスト教会のことを気遣っていたいただき、祈りを捧げてくださった皆さまには心より感謝いたしております。またお越しいただいた宇野徹主教様をはじめ、140名の皆さま、心より感謝

いたしております。ありがとうございました。ごさいました。

山根貞夫司祭様のお話の中に「小さな群れよ、

恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。」庄内キリスト教会はまさに小さな群れであります。

1962年8月16日、木川田一郎主教様と共に数名の信

徒で庄内西町の借家において「庄内伝道所」を開所され、1965年10月24日、現在の野田町に移りました。

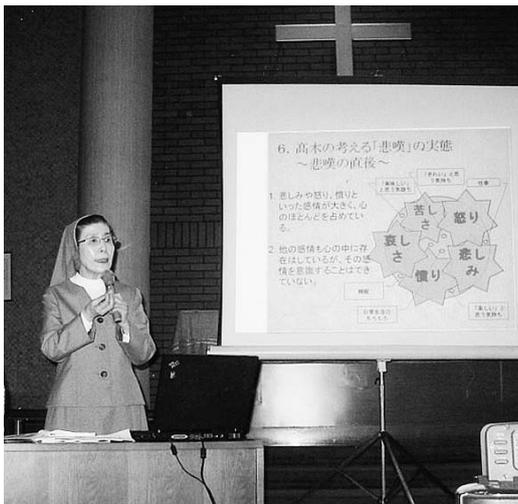
冒頭に書きました「ちいさな祈り」は、2003年11月24日現在の礼拝堂を建築した際、信徒から「この庄内の地に新しい教会を建てたことの意味、意義はなにか。忘れなように何か残すことが出来たらいいな」という願いから、

最後に庄内キリスト教会に携わってくださったすべての方に感謝し、神様の祝福とみ恵みが大きいありますように。(あべ ひかる・庄内キリスト教会信徒)

## 教会婦人会 秋の修養会

### シスター高木慶子さんの講演 悲しみに寄り添って

マルタ 則定 洋子



今年の秋の修養会は、10月17日(水)聖ルカ日の前日に大阪聖愛教会で行われました。台風の影響で予想通り朝から雨の中、会場へ向かいました。

テーマは「悲しみに寄り添う」ターミナルケ

アとグリーンケア」。講師のカトリックシスター高木慶子先生は、上智大学グリーンケア研究所長としてご多忙な中、東日本大震災後、毎月被災地に行かれて、悲しみの中にいる人々の心のケアを続けておられます。親戚、家族や友人、身近な人の死。ターミナル期を経ての死、災害、事故、予期しない突然死。それぞれの残された遺族の悲しみはとても深いものです。

また、家、財産、仕事などを地震と津波で一瞬にして奪われた被災地の人々の悲しみは計り知れません。また、JR脱線事故の被害者や残され(次頁四段目につづく)



# 京都教区との協働を目指して

## 聖職と教会紹介 13 最終回

司祭 マーク・ウイリアム・シユタール



のような存在です。お近くにおいでの際には、商店街から石段を4段お上がり下さい。聖霊に徐々に満たされていき、別世界に導かれる感覚を味わえると思います。

信徒の集いも滅多に出ることができません。その為、大阪教区の方には特に知られていないと思います。これからは、もっと大阪教区の方にもお会いしたいと思います。  
(奈良基督教会、西大和聖ペテロ教会 副牧師)

### 『京都教区との協働を目指して』連載を終えて

西大和教会は、2001年に再建され、現代的です。ベツドタウンにあり、小さく、アットホームな雰囲気です。少人数ですが、皆さんとても熱心で元気です。定住の司祭がいらないので、3、4人の司祭が交代で礼拝をしたり、み言葉の礼拝が守られています。私自身は、奈良に来て23年経ちますが、アメリカ生まれで、大学院までオハイオ州で過ごしました。この大和の地に来てから、神学校に行くことを勧められ、ウイリアムス神学館に行きました。大学の仕事の関係で、教役者の集い、

2010年10月10日発行の大阪教区報第415号より13回に渡り連載してまいりました本シリーズは今回の第428号を持ちまして予定通り終了いたしました。お忙しい中、原稿を寄稿いただいた京都教区の聖職の皆様には、心より感謝いたします。

京都教区報『つのおえ』は新年から大阪教区の聖職が同様に寄稿します。両教区の協働がさらに推進されることを願います。(編集部一同)

(前頁よりつづく)  
た家族、加害者側の人達も苦しんでいます。その人達の心のケアを本当に寄り添って支えておられます。

各々のお話の数々に胸が詰まり、感動して涙ぐむ人が沢山いました。

寄り添う。悲しみ苦しんでいる人に言葉はいらない。認めることが大切であるとのこと。

死は一つの扉である、この扉をくぐって神の国に入っていく。神はそこで待っていて

下さる。そこには真理・自由がある。それが信仰であると話されました。

出席者179人(内、聖職者9人、男性24人、他教区・他教派各1人)、席上献金160,395円。

講演の後、会館にて聖愛教会婦人会の方々の心のこもった茶菓をいただき感謝しつつ帰途につきました。

(のりさだ ようこ・大阪聖三一教会信徒)

## 大阪教区婦人会 被 献 日 礼 拝

日 時 2013年 2月 2日(土)  
午前10時30分から

場 所 芦屋聖マルコ教会

司 式 主教 サムエル 大西 修 師父

説 教 司祭 ロイス上田亜樹子 師  
(米国聖公会ハワイ教区司祭)

◎男性の方もどうぞお越し下さい

# 大阪教区サーバー研修会に参加して

## サーバーとしての自己点検できる機会

パトリック 古賀 稔也

11月17日に川口基督教会にてサーバー研修会が行われました。川口教会のアルプをお借りしての出席です。サーバー奉仕のときに着るキャソック・アルプと違う形で少し戸惑いましたが、そのことを通して、サーバーおよび信徒奉事者お互いが、式服の整いの

チエックをすることを学びました。

30ページにわたる「サーバーストレーニングガイド」と祈禱書サイズのサーバー心得のしおりを傍らに置いて研修会が始まりました。

まず式服（祭服）の説明を受け、それらは救われた者の



「声の無い言葉」であり、神様と人々の奉仕にあたり、信徒の模範となるように心がけること、また白い式服を着る場合は下に着る服の色の配慮をする等を学びました。

実践として、ろうそくの点火・消灯、入堂と退堂を司祭・主教と共に行う役割をくじ引きで決め、場は和みながらも気を引きしめて学びました。特に退堂時の所作や歩き方は丁寧に学びました。後ろを向く時は中心に向かって内

回りをしっかりと確認。

その後、二つに分かれ司式者のもとに侍り、陪餐の準備と後片付けの説明と所作見本に続き、参加者の実践。奉献時に水のクルエットを司式者に渡す時は、水の聖別がわかるように少し高く掲げる等、様々な学びがありました。質疑応答もそれぞれの教会の現場からの声だったので、即実践につながる意見を聞くことができました。

参加してサーバーとしての自己点検をできる機会が得られ、この研修会の企画・運営



をしてくださった教区の皆様に感謝いたします。  
(こが としなり・大阪聖ア  
ンデレ教会信徒)

## サーバーの役目を改めて勉強

ヤコブ 鈴木 靖夫

教区宣教部礼拝・音楽委員会、聖堂参事会共催による信徒奉事者のためのサーバー研修会が去る11月17日午後、主教座聖堂で開かれました。あいにくの天気でしたが聖職者スタッフ、信徒奉事者計22名の参加がありました。

開会祈禱、大西主教のお話

に続いて、初めにサーバーの心得、マナー、服装など「基本的な事柄」を学んだあと「実践」に入り、入堂順序、陪餐の準備、片付けなど参加者各々で実際にやってみました。歩く姿勢、クルエットの持ち方など細かいところまで指導がありました。もちろん各教

会ですでにサーバーをやっておられる方もおられますが、神の愛と慈しみに応える「奉仕」を、喜びをもって行うサーバーの役目を改めて勉強いたしました。

次回は来年2月23日(土)に予定されていますので、どなたでも是非ご参加ください。ますようお願いいたします。(すずき やすお 恵我之荘 聖マタイ教会)

### 世界の窓

◎丁光訓中華聖公会主教(ビシヨップ・ティン)が南京で死去

中国プロテスタント教会指導者で中華聖公会主教、丁光訓師父が11月22日南京で死去した。97歳。中国基督教協会、中国基督教三自愛国運動委員会の会長を長らく勤め、中国プロテスタント教会の代表者として、教派が解消した後も国内外で「ティン主教」として知られていた。ジュネーブで世界キリスト教学生同盟活動後、1951年から中国に帰国し基督教三自愛国運動に参加した。1955年に中華聖公会浙江教区主教に聖別されたが、1966年に文化大革命が始まると南京近郊へ下放された。1980年には「基督教两会」(中国基督教協会と三自愛国運動委員会)の会長に就任し、その後も中国プロテスタント教会の慈善・社会活動機関「愛徳基金会」会長、「基督教两会」名誉会長、全国政治協商会議副主席、全国人民代表大会代表委員を歴任した。三

自愛国運動に吸収された形で、聖公会はすでに中国には存在していないが、主教職は保留されている。米福音派系フラー神学校のリチャード・J・マウ学長は、「丁主教の中国教会への貢献は最大級のもので、彼の遺産は著作などの業績によって、今後長く継承されるだろう」と評価している。(CIC Tokyo, Nov. 22, 2012)

◎次期カンタベリー大主教、女性主教叙階を望む

11月22日の英国教会会議で女性主教叙階が否決されたことを受け、同日、次期カンタベリー大主教に選ばれたジャズティン・ウエルビー現ダラム主教は「女性が英国教会の主教になる日が来るのは明らかである」と、女性主教叙階認可を希望する思いを吐露している。女性主教はカナダやアメリカ聖公会で活躍しており、そして英国教会と最も親密なオーストラリア聖公会でもすでに認可され叙階されているにも関わらず、英国は未だ改革と伝統の狭間で揺れているのが現状である。英国

### いびもよ楽しむコンサート

執事 クリストファー 奥村 貢充



11月17日(土)、聖贖主教会の礼拝堂に児童養護施設の子どもたち、また幼稚園と保育園の園児とご父兄約120名の方々が「こどもと楽しむコンサート」に出席しました。当日は昨年と同様あいにくの雨天でしたが楽団「アンサンブル・ギリビッツォ」の素晴らしい演奏に耳を傾けていました。

子どもたちが一緒になって手拍子を打つところが印象的であり、他のコンサートでは体験できないようなことができたのではないかと思います。最後に、聖歌の「きよしこの夜」、「いざうたえ、いざいわえ」を楽団の演奏によって子どもたちが心を合せて一緒に歌い、一足早いクリスマス準備にもなったと思います。当日は博愛社関係諸施設の全面的な協力を頂き、感謝のうちにコンサートを終えることができました。(おくむら たかみつ・聖贖主教会 牧師補)

教会のそういった態度が、アフリカやアジアでの女性主教叙階反対を助長しているという意見もあり、次期カンタベリー大主教の意見は世界の聖公会に大きな影響を与えることになるだろう。(Anglican Communion News Service: Nov. 22, 2012)

### 阪神・淡路大震災18周年 追悼の集い

日時 2013年1月17日(木)  
午後7時~8時

会場 西宮聖ペテロ教会  
西宮市郷免町 8-5 電話 0798-33-5438  
(阪急神戸線夙川駅より徒歩7分、JRさくら夙川駅より徒歩10分)  
\*駐車場あります。

メッセージ 大阪教区主教 大西 修 師父

テーマ 追憶・追悼・希望  
~オルガン・ピアノ・フルート・サクソフォンの演奏、独唱、詩の朗読  
そして“祈り”~

主催 西宮聖ペテロ教会  
どうぞ、どなたでもお越し下さい。  
ともに集まり、ともに追悼のときを持ちましょう。

# 連合男子会一日修養会

ペテロ 鈴木 憲二

連合男子会一日修養会は2012年11月18日(日)午後2時より川口基督教会にて開催された。同教会の星野祥二さんによる司会進行で3名のパネリストから「管区宣教協議会の話し合いから学ぶもの」をテーマにそれぞれが感じたことを話された。

最初に石橋聖トマス教会の長野泰信さんは「若い人の力、



若い人の行動力には目を見張るものがあり、北海道教区の若い女性から『信徒の減少を決して嘆かないで下さい。高齢者の方々から学ぶものが沢山あります』と励まされた。また牧会とは牧師一人がするのではなく信徒を含めて教会全体で行うことであり、昔所属の教会牧師と一緒に信徒宅を回った」と、思い出を語られた。

芦屋聖マルコ教会の山本眞司祭は、2008年に日本聖公会の定期総会で出された3つの提言と、その後2011年3月11日に起こった東日本大震災と福島第一原子力発電所の災害は命に対して重大な犠牲と被害をもたらしたことにふれられた。聖公会信徒の減少、聖職者の不足、教会建物の老朽化を三重苦といっているが、これらの思いが北海道教区の女性の一言で覆ったことを話された。

チャブレン岩城聰司祭は管

区宣教協議会の西原廉太司祭の講演から、アングリカン・コミュニオンの「宣教の5指標」を一本のロープのようにしっかりとよりあわせるにはケリユグマ伝道、ディアコニア奉仕、マルトウリア証し、レイトウルギア礼拝・祈り、コイノニア交わりのそれぞれが必要だと力説された。またウエルズ聖公会の宣教ビジョンについて説明された。

大西主教は会のまとめとして若い人の力はすばらしい、聖公会が力をつけていくには若い人の力をどんどん出してもらい今の大人達をひっぱって元気づけて欲しいと思いを打ち明けられた。

第二部は宇野豊実行委員長の司会進行のもとに懇親会が開かれた。川口基督教会婦人会の方々の手作りおでんを一同美味しくいただきながら和気藹々のうちに終了した。当日の信施金30,750円は東北教区主教座聖堂建築のために献げられた。(すずき けんじ 尼崎聖ステパノ教会信徒)

## 教区の動き

### 常置委員会報告

10月22日(第11回定例会)

#### I. 協議事項

- \* 奥村・千松・古澤3執事に管区共通聖職試験(2013・3/5・3/7)を受けさせたい、また同じ時に義平雅夫聖職候補生の執事試験も実施したい旨の主教諮問があり了承した。
- \* 成岡宏晃聖職候補生志願者は2013/1/1付で聖職候補生に認可すると的主教報告を了承した
- \* 大阪教区と京都教区の協働及び合併に関する検討委員会中間報告(案)について確認

- \* 大阪教区成立90周年記念礼拝の日程を、2013年11月4日(月)に決定
- \* 第108(定期)教区会へ提出議案について確認、協議した

11月14日(第12回定例会)

#### I. 主教報告

ジャスティン・ウエルビー主教(Justin Welby)ダラムの主教(56歳)が第105代カンタベリー大主教に選ばれた。2011年に主教に按手されている。着座式2013年3月21日の予定

#### II. 協議事項

- \* 2012年日本聖公会宣教協議会「いのち、尊厳限りないもの」宣教する共同体のありようをもとめて、日本聖公会へ宣教・牧会の10年提言を各教会で信徒に配布し、礼拝後などに、全員で読む時間を持つよう教役者に依頼する
- \* 教区事務所主事の選考と、同職員勤務形態の確定、及び同職員「就業規程」の新設について教務局より提案あり検討

教区関係教役者

逝去者記念聖餐式

◇ 1月9日 (水) 10:30 ~

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 ペテロ 岩城 聰 司祭

- 1日 宣教師 ヘンリー・ラニング (1917 米)
- 司 祭 デイビッド・マーシャル・ラング (1946 英)
- 司 祭 ウイリアム・ロイストン・グレイ (1950 英)
- 3日 主 教 ウイリアム・オードリー (1910 英)
- 司 祭 河合 莞三 (1939)
- 12日 司 祭 ヨセフ 側垣 基雄 (1965)
- 司 祭 ギデオン 小川 博司 (2002)
- 13日 伝道師 三木 八十五郎 (1918)
- 15日 司 祭 パーシー・A・スミス (1960 米)
- 伝道師 寺本 房吉 (1960)
- 19日 司 祭 ペテロ 宇野 秀太郎 (1944)
- 主 教 アーサー・リー (1958 英)
- 伝道師 今泉 穎子 (1970)
- 20日 司 祭 ヒカル 柳原 光 (1994)
- 21日 司 祭 久永 光雄 (1937)
- 22日 主 教 ペテロ 松本 寛一 (1980)
- 25日 執 事 ト部 徳太郎 (1933)
- 27日 司 祭 サムエル 久保 道則 (2011)
- 30日 執 事 バルナバ 寺沢 久吉 (1945)
- ?日 司 祭 山下 有任 (1903)

◇ 2月20日 (水) 10:30 ~

於: 主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者 ジョージ 林 正樹 司祭

- 1日 宣教師 エルザ・M・キーン (1949 英)
- 3日 司 祭 トマス 佐藤 時雄 (1989)
- 5日 司 祭 バークレー・フォーウェル・バクストン (1946 英)
- 8日 宣教師 フランシス・エドワード・ハモンド (1932 英)
- 10日 司 祭 祖山 達三 (1941)
- 司 祭 皆川 晃雄 (1952)
- 宣教師 フローレンス・マリアン・ファジル (1956 英)
- 13日 伝道師 マリア 奥田 ヤス子 (1949)
- 14日 司 祭 J・ハミルトン・クインビー (1882 米)
- 16日 司 祭 ステパノ 久保 登知雄 (1981)
- 17日 司 祭 ジョージ・ヘンリー・ポール 1929 英)
- 19日 伝道師 小橋 かつえ (1964)
- 20日 司 祭 ヨセフ 松岡 安立 (1972)

\* 教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご出席ください。なお、昼食の準備はなく、茶菓のみの提供となります。



祝受洗

○大阪聖パウロ教会

アブラハム 浅田 憲治 (10月19日)

ラファエラ 松井 美千代  
 マリア 望月 妙夏  
 アンデレ 望月 祥裕 (11月8日)

○西宮聖ペテロ教会  
 ハンナ 北川 優里 (11月12日・59歳)  
 ○大阪聖ヨハネ教会  
 ルデヤ 江本 千代 (11月25日・99歳)



祝受按

○聖ガブリエル教会

テモテ 宮本 尚亮 (10月21日)

○西宮聖ペテロ教会

マリヤ 柴田 吉子 (9月21日・94歳)

○堺聖テモテ教会

グレース 近藤 嘉代子 (10月11日・60歳)

○芦屋聖マルコ教会

アグネス 今森 道子 (10月11日・60歳)

魂の平安を祈ります

教区報第427号訂正

※10月21日発行の教区報第427号の訂正は次の通りです。

2頁5段目9行目  
 (誤) 大阪聖ペテロ教会  
 (正) 大阪聖パウロ教会

編集後記

主のご降誕をお祝いします。教区報第428号が予定通り皆様のご協力により、無事発行できましたことに深く感謝いたします。

京都教区との協働についての連載も予定通り今回で終了いたしました。次号からは新たな企画を広報委員会メンバーで検討中です。ご期待ください。新たな年もどうか健康に守られて良い年になりますよう祈念いたします。

(司祭 ジョージ)

11頁4段目29行目

(誤) 東豊中聖ミカエル教

(正) 東豊中聖ミカエル教会

次号・第429号 発行予定

2013年2月17日(日)大斎節第1主日